

職員History① ～医療技術・事務職員編～

びわこ学園は病院機能と福祉機能を併せ持った法人であり、多様な職種の職員が利用者支援に携わっています。今年もそれぞれにびわこ学園で働く中で感じていることを綴っていただき、職種ごとでまとめさせていただきました。



面接時に草津と野洲の放射線課兼務を伝えられ2施設勤務がスタートしてから早10年、時の流れの速さに驚いています。それまで私は急性期病院に長年勤務していました。

当時、ケアマネジャーさんから重度心身障害者医療についてお話を聞いて今までの医療と異なる医療に惹かれ、診療放射線技師としての経験が何か役に立てないだろうか考えたのが出発点でした。

入職当初、利用者さんとコミュニケーションをとることが難しく検査ができない時もありました。岡崎先生の「本人さんはどう思てはるんやろ」の言葉をかみしめ、利用者さんのサインを受け取ることの大切さを痛感しました。利用者さんや職員の方々にたくさん支えられて今日まで来られたことに感謝し、初心を忘れずに邁進していきたいと思います。

(橘川 信忠・診療放射線技師 係長11年目)
びわこ学園医療福祉センター草津

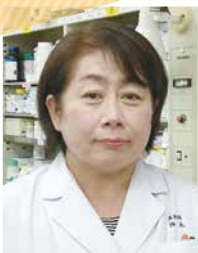


センター草津を初めて訪れた研修で「こんなに楽しいリハビリをできるPTになりたい」と思い、就職してから5年が経ちました。当初は、利用者さんはどう感じていらっしゃるのか、どうやって信頼関係を築けばよいのか、自分に何ができるのか、等

日々悩みながら通っていました。今でも悩みながらですが、利用者さんからたくさんのことを教わり、考えの幅でできることが少しずつ広がってきたと思います。

2、3年目の頃、ある利用者さんの腕用ハンモックを病棟の担当職員と一緒に作りました。それを使うと笑顔で腕を動かしてください、『往年の〇〇さんパンチだ!』と周りの職員も一緒に盛り上がったことを覚えています。そんな達成感や笑顔を共有できる瞬間をこれからも大切にしていきたいです。

(鈴木 千晶・理学療法士6年目)
びわこ学園医療福祉センター草津



ご縁を頂きセンター野洲に入職し、あっという間に6年になります。

それまでの職場とは違う採用薬品、複雑な処方箋に戸惑いつつ、とにかく無我夢中で目の前の調剤と向き合ってきた毎日でした。そんな中、園内に展示されている利用者さんの詩や造形作品に温かい気持ちや元気を頂いたり、他職種スタッフと利用者さんとの関わりに深い絆を見て、胸を打たれることも多々ありました。

薬剤を通じて利用者さんの健康やQOL向上のお手伝いすることは私にとって大きな喜びです。最新の情報をキャッチアップし適切に提供することや、お一人お一人に対する理解を深めることで利用者さん、チームに信頼して頂けるようになりたいです。

岡崎先生の「本人さんはどう思てはるんやろ」「熟慮冷諦」の言葉を胸に刻み、これからも学びを続けていきたいと思っています。

(鈴木 智美・薬剤師6年目)
びわこ学園医療福祉センター野洲



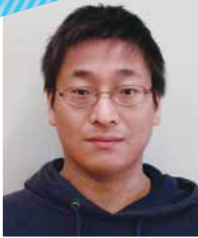
事務所の隅で数字を見つめ3年と少しになります。態度は10年目とお声がけいただくこともあります(笑) そんな私も入職当初はびわこ学園についての知識の無さ、数字の大きさに圧倒されるばかりで、日々「数字の羅列」を処理することに必死でした。それでも2年、3年と経験を積み重ねていく中で、無機質な数字が有機的なものになりつつあるのを感じます。それは利用者様、支援に関わる職員、施設の事務員、様々な人との関わりの中で自分が扱う数字は様々な人の手を介し、色んな思いが内包していることを教えていただいたからです。そのような関わりや機会をいただけたことに日々感謝しています。

これから経験年数を重ねても「自分が何を知らないのか。」を知ることを心掛け、人との関わり合いの中得られるものに目を向け、日々の業務一つ一つを大切にしていきたいと思っています。

(柴原 麻美・書記4年目)
法人事務局

職員History② ～生活支援員編～

ここでは、生活支援員4名の皆さんに綴っていただきました。



びわこ学園に勤めて5年が経ちました。日々病棟が忙しい中でくると動き回っていると、ふと「今の支援で良かったのか」と考える事があります。どたばたと食事が進んでいなかったか？本人が気持ちを出せていたのか？立ち止まって考えると職員本位な事ばかりかもしれません。

何が正しいのかは未だ全く分かりません。しかし、周囲の職員、特に他業種の方々と話をするとたくさんの視点や意見をもらえます。それは自分の価値観や考え方を見直すきっかけになって働くヒントになっています。

正解のないまま不安な道ですが、今はゆっくりと少しずつ利用者さんの生活に向き合っていけたら幸せだなあと考えています。

(井上 岳治・生活支援員6年目)
びわこ学園医療福祉センター草津

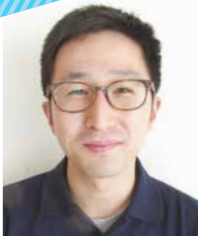


私は大学卒業後、びわこ学園に就職し、4年間「ヘルプステーションちょこれーと。」で訪問介護を経験しました。一人で利用者さんのご自宅に訪問して支援を行うことに、初めは大きな不安がありました。先輩方、利用者さん、ご家族は頼りない私を温かく見守って下さいました。

訪問先では先輩方の目がない分、支援技術についても社会人としてのマナーについても、ご家族が指摘して下さい学ぶことが多くありました。利用者さんは私の間違っていることを言葉や表情で教えて下さったり、介助しやすいようにタイミングを見て身体を動かして下さいました。徐々にリラックスして利用者さんに関われるようになったと感じていますが、利用者さんはどう思っておられたのでしょうか。やはり、一番に思い出されるのは、利用者さんがご家族から愛され、安心しておられる姿、幸せそうに笑っておられる姿です。病棟で働く今も、私との関わりの中でそのような姿が見られるようになることを目標にし、利用者さんへの丁寧な声掛けや支援を大切にしていきたいと思っています。

訪問先では先輩方の目がない分、支援技術についても社会人としてのマナーについても、ご家族が指摘して下さい学ぶことが多くありました。利用者さんは私の間違っていることを言葉や表情で教えて下さったり、介助しやすいようにタイミングを見て身体を動かして下さいました。徐々にリラックスして利用者さんに関われるようになったと感じていますが、利用者さんはどう思っておられたのでしょうか。やはり、一番に思い出されるのは、利用者さんがご家族から愛され、安心しておられる姿、幸せそうに笑っておられる姿です。病棟で働く今も、私との関わりの中でそのような姿が見られるようになることを目標にし、利用者さんへの丁寧な声掛けや支援を大切にしていきたいと思っています。

(高田 涼華・生活支援員6年目)
びわこ学園医療福祉センター草津



センター野洲の生活支援員として働いて今年で6年目になります。最近ふと思い出すのは、2住棟に来てはじめて嬉しかったことです。それは詩を書く利用者さんが、数人おられることでした。なぜそう思ったか

というと、私も長く詩を書いていたからです。

若い頃から詩やお話の創作をしてきた2住棟の利用者さんとは、詩の話が自然とでき、このことは私にとってとても幸運なことでした。利用者のMさんからは「しはこころのふうけい」と教えてもらい、Hさんは私のことを「しのなかま」と言ってくれました。

お二人とも今は心身の状態の変化から、詩を書くことができなくなっておられます。言葉にならないまま忙しく流れていく住棟の毎日ですが、利用者さんから貰ったいくつかの言葉は、思い出す度、私を立ち止ませ大切なことを教えてくれます。

(梶谷 佳弘・生活支援員6年目)
びわこ学園医療福祉センター野洲



びわこ学園へ就職して5年が過ぎました。初めての着任先は「グループホーム」でした。就職して初めの頃は、不安の方がいっぱいでしたが先輩職員から丁寧に指導いただき、利用者さんとの関わりが楽しくなっていったのを覚えています。その頃から今も、大

家族の一員のような気持ちで利用者さんに関わらせてもらっています。

その関わりの中でも特にこの仕事を続けてきてよかったと思うことは、利用者さんの気持ちに寄り添うことで自分に向けられた笑顔を見た時です。その笑顔が見たくて今まで仕事を続けられているように思っています。

これからは、一人でも多くの利用者さんから信頼される職員になれるよう、自身のスキルアップを目指して、苦手なことにもチャレンジしていこうと思います。

(加藤麻美子・生活支援員6年目)
びわこ学園障害者支援センター・ケアホームとる